

第6節 南原千軒遺跡の総括

はじめに

南原千軒遺跡は、縄文時代から中世に至る複合遺跡である。平成16・17年度調査分を合わせると縄文時代後期の竪穴住居1棟、弥生時代中期から後期の自然流路3条、土坑9基、古墳時代後期・終末期の竪穴住居4棟、溝1条、土坑1基、平安時代前期の溝3条、そして鎌倉時代から室町時代の溝2条、自然流路3条、掘立柱建物7棟、墓1基、鍛冶工房1ヶ所、土坑38基などを検出している。当地が各時代にわたって人々が諸活動を営むために適した地であったことが窺える。このうち、中世の屋敷地と溝からなる本遺跡は今回の調査によって、方形館跡であることが判明した。

本節では、中世の調査成果に焦点をしばり、館跡としての南原千軒遺跡の性格と意義についてまとめを行いたい。

1. 南原千軒遺跡出土土器の様相

今年度の調査によって、土師器、須恵器、勝間田系須恵器、備前焼、瀬戸・美濃焼、常滑焼、瓦質土器、中国産の陶磁器などが出土している。国内産の土器・陶磁器の内訳は、在地産の土師器が約8割を占め、備前焼が1割と続く(第63図)。これらは、11世紀後半から15世紀にかけての時間幅が見られるが、当該期における産地別の組成をある程度反映しているものと思われる。本論では過去の調査分を含め出土土器・陶磁器を整理する。

(1) 土師器

県内の中世前期の土師器坏・皿は中森祥、玉木秀幸によって編年案が提示されている(表16、中森2005、玉木2006)。ここでは、その成果に基づき量的に最もまとまって出土したSD7出土土師器で検討したい。ただし、口径・器高がわかるものが少ないため、玉木分類による底径の計測値を主に見ていくことにする。

4区の坏14点の底径は4.1～9.0cm。平均5.6cmで玉木編年Ⅱ期6段階(以下、時期・段階のみ表記)である。5区の坏10点の底径は5.0～7.4cm。平均6.2cmとなり、Ⅱ期3～4段階に収まる。4区から出土した坏の底径が小型なのは、中世後期に堆積した上層出土土師器を含んでいることに起因するものと思われる。小皿は4区で口径10cmと底径3.6cmで、それぞれⅡ期1段階、Ⅱ期5段階に位置づけられる。5区は3点の底径が平均5.9cmでⅡ期1～3段階、1点はⅡ期1・2・4段階となる。4・5区の法量から判断すると、坏・小皿は12～13世紀代に該当する。

鍋は4区遺構外で56、5区SD7から95が出土している。56は内外面ハケ調整を施し、短縮した口縁が「く」字状に屈曲する。体部は直線的である。一方、95は口縁部が「く」字状に屈曲し、直線的に外傾し、体部は球状に丸味を帯びている。これは加藤裕一の分類によれば土師質鍋Ⅰ類に相当し、東伯耆では12世紀から13世紀前半に位置づけられる(加藤2007)。過去の調査資料を瞥見すると、Ⅰ類が平成16年度SD7で2点、SD4で1点、SK10で2点、平成17年度調査ではSK30で1点見られ、受け口状の鍋Ⅱ・Ⅲ類がほとんど認められない。また、同じ煮沸具のなかで土師質の羽釜が平成16年度SD4で1点、SK9で1点出土している。いずれも加藤分類の羽釜Ⅰ類に該当し、倉吉市大日寺遺跡予備トレンチ、三朝町福呂Ⅰ遺跡土坑8出土資料と形態が類似する。これらの資料はいずれも12世紀中頃から後半に相当する。

(2) 焼締陶器

a. 須恵器系

勝間田・亀山系は9点出土しており、遺構別では4区SD7で2点、5区SD7で1点、SD20で3点、4区包含層1点、5区包含層2点を数える。いずれも格子叩きをもつ甕で、内面はハケ調整が多い。平成16年度調査ではSK13出土須恵器の胎土分析を行い、勝間田産と推定された(白石2005)。また、SK15では勝間田系と考えられる須恵器が中森編年Ⅲ～Ⅳ期(12世紀代)の土師器小皿と共伴している(君嶋2005・2006)。そのほか、産地不明の須恵器が3点あり、このうち5区SD7出土94は、粘土紐巻き上げ成形で、内外面ナデ調整を施している。外面は光沢を帯び、色調は灰色で焼成が堅地であるなど勝間田系須恵器壺の可能性もある。また、SD19から底部粘土板と体部粘土紐との接合痕が残り、内外面ナデ調整を施す産地不明の須恵器壺36が認められる。

備前焼は、4区SD7上層と5区SD20、各区包含層から18点出土している。器種は播鉢16点、壺1点、小壺1点である。このうち播鉢は、重根分類(重根2003・2005)でⅣA～ⅣBに比定され、14世紀中葉から15世紀代に位置づけられる。

b. 瓷器系

常滑焼がある。常滑焼では甕片1点が4区SD7から出土している。口縁部の形態から中野分類6～7型式に相当し、14世紀前半代と考えられる(中野2005)。そのほか、非掲載であるが甕の体部破片がSD20で散見される(PL.26)。

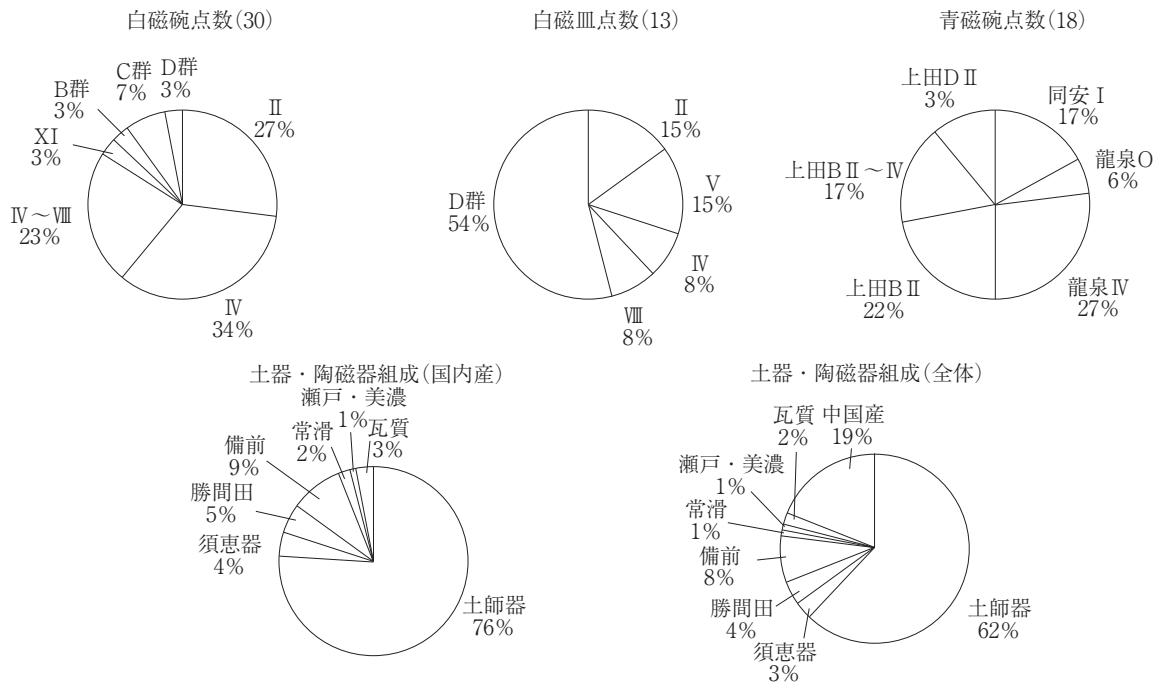
(3) 輸入陶磁器

今回の調査では白磁49点、青磁22点、青白磁2点、黒釉陶器4点、雑釉陶器1点の合計78点の貿易陶磁が出土した⁽¹⁾。平成16・17年度調査分26点(掲載分のみ)を合わせると104点となり、白磁が青磁の2倍以上となる。

第63図に貿易陶磁の器種組成を示している。白磁碗はⅣ類が3割を占め、Ⅳ～Ⅶ類を合わせると6割近くになることから中世前期が主体となる。白磁皿は中世前・後期が5割ずつとほぼ拮抗している。青磁碗も中世前・後期がそれぞれ半数を占めている。このことから、貿易陶磁は10世紀後半から12世紀代と14世紀後半以降の2時期に分かれ、13世紀から14世紀前半が空白となること、青花を伴わないことが本遺跡の特色である。なお、中世前期の貿易陶磁の1㎡あたりの出土点数は、4・5区で0.014点、調査地1～5区で0.010点である。西伯耆の中世集落である茶畑六反田遺跡・押平弘法堂遺跡で0.002

表16 中世土師器編年と南原千軒遺跡遺構変遷表

中森(2005)	年代観	玉木(2006)	年代観	調査地1・2区	調査地3区	調査地4・5区						
		I期	1段階 2段階	11世紀								
I期	11世紀末～12世紀初	II期	1段階	12世紀初頭～後半	SK5・15	SK3・6・7 13・18・21	SB2	SD7 SD4	鍛冶工房	SD7 SB6	SD7	
II期	12世紀		2段階		SK2		SB1	SK30				
III期			3段階		SK10			SK39				
IV期			4段階	12世紀後半～13世紀前半								
			5段階			SK12						
V期	13世紀前半	6段階	13世紀～14世紀前半									
14世紀後半～15世紀										SB4・5・6	SD19 SD20	



第63図 貿易陶磁・国産陶磁器類の組成

点(榊原2005)、中世前期の屋敷地と想定される門前上屋敷遺跡では0.009点であり、南原千軒遺跡は後者に近い。この数値の差は一般集落と居館との違いを反映している可能性がある⁽²⁾。

2. 遺構の変遷

以上の出土土器の検討を踏まえ、遺跡内の遺構変遷について整理したい(第64図)。出土土器・陶磁器のおよそ6割を占め、当該期編年の基軸となる土師器は、中森編年Ⅱ～Ⅳ期、玉木編年Ⅱ期2～5段階の時間幅に相当し、およそ12世紀から13世紀前半に位置づけられる(表16)。玉木秀幸は、土師器の良好な一括資料が出土するSI2を3段階、SK10を4段階、SK12を5段階に位置づける(玉木2006)。これらの一括資料を基軸として他の遺構を見ていくと、土坑群は2段階から5段階の資料が混在する。屋敷墓であるSK2は和鏡の製作年代から12世紀後半代となる。大型建物SB1・2は、SB1の柱穴から蓮弁文を有する青磁椀が出土することから廃絶年代を13世紀初めと考える。SB2は年代を決定する出土遺物がないため確定できないが、SB1と主軸が異なることから同時存在よりも、時間差があったものと推定する。仮にそうであるならば、SB1に切られるSD4とほぼ軸が同じであるSB2をSB1より古く位置づけたい。鍛冶工房はSB2と近接するため両者は同時存在とは考えにくく、さらに、鍛冶炉3基を結ぶ主軸がSB1と同じであることから、両者はほぼ同時期であると考えた方が理解しやすい。屋敷地を回繞するSD7は、玉木編年Ⅱ期2段階から5段階を伴うことから、上限を12世紀前半、下限の最終埋没年代を13世紀初めまで下るものとした。

次に館外の様相を見ていこう。4区で検出された建物群SB4・5はほぼ主軸を同じくすることから同時存在と考える。SB4とSB7は重複するが、新旧関係は不明である。廃絶年代は、SB4柱穴から白磁椀D群が出土していることから、SB4・5は14世紀後半から15世紀に位置づけられる。そして、4区のSD7の一定範囲でこの時代に掘り返しが行われたことがわかっている。5区の自然流路であるSD20・21は重複関係からSD21が古く、SD20が続く。SD20の埋没年代は青磁椀や国産陶磁器などの出土から、14世紀後半から15世紀と考えられるが、下層を中心に白磁椀Ⅱ・Ⅳ類などが認められるこ

とから、上限は館跡とほぼ同じ12世紀まで遡る可能性が高い。

以上をまとめると、居館の成立年代はほぼ12世紀初頭、廃絶年代を13世紀初めとし、館外の建物群は14世紀後半から15世紀代に位置づけられよう。

3. 南原千軒遺跡における鉄・鉄器生産

南原千軒遺跡では、12世紀代の居館内の鍛冶工房が検出され、多量の鍛冶関連遺物が出土した。今回の調査でも、鉄滓や羽口など鍛冶関連遺物が出土遺物全体の中で主要な位置を占めている。そこで、過去の調査成果を踏まえ、遺跡全体の鉄・鉄器生産の様相をまとめてみたい。

(1) 鍛冶工房の構造

鍛冶工房は屋敷地内のほぼ中心部に位置し、東西約11m、南北約8mの範囲にわたって鍛冶炉3基、関連ピット32基、土坑2基が検出された。鍛冶炉3基は主軸をW-5°-Nにとって並んだ状態で検出されている。相互の間隔は、鍛冶炉1-2は約3m、鍛冶炉2-3は約2.5mである。工房域西端の鍛冶炉1を挟むようにP1・3が位置し、埋土中から粒状滓・鍛造剥片が合わせて約813g回収されている。鍛冶炉2は工房域のほぼ中心部にあり、東南方向にP16、南にP7が約0.9m間隔で位置する。P7からは粒状滓・鍛造剥片が890gと際立って多く出土している。鍛冶炉3周辺にはピットが密集しているが、このなかで微細遺物が100g以上回収されているものはP9(154g)、P10(258g)、P15(162g)である。鍛冶炉付近に位置するピットは径0.3~0.6mの不整形円で、断面形が桶状のP1・15・16と段状のP3・7・9の二形態に分かれる。いずれの埋土も木炭片や焼土粒を密に含み、粒状滓・鍛造剥片などの微細遺物も多いことが特徴である。このようなピットは鍛冶炉とセット関係を有していると考えられる。

平成17年度調査では8×6mの範囲に、25cmメッシュを組んで土壌を回収し、水洗・選別作業を実施している(第65図)。このうち、0.8mm目以上のフルイにかかった遺物を、①粒状滓、②鍛造剥片、③鍛冶滓、④炉壁、⑤炭化材、⑤土器片、⑥羽口に分類し集計を行った(表6~13)。

その結果、鍛冶工房では総重量6.4kgの鍛造剥片・粒状滓が回収されている。工房域で微細遺物が集中する地点は、鍛冶炉2の西側B4・5グリッドと鍛冶炉1の南側約1.5mのD2グリッドである。前者が鍛冶炉2に伴う鍛打作業の中心であった可能性が高い。また、後者はやや離れるが鍛冶炉1に伴うものと想定される。鍛冶炉3周辺は密度が低いが、サンプリング対象地外の東側で鍛打作業が行われていたものと推定される。

(2) 操業内容と規模

今年度調査地4・5区は居館の西端に当たるが、堀や包含層から多量の鍛冶関連遺物が出土している。4・5区から出土した鍛冶関連遺物は468点、重量約223kgである。調査地別では1・2区で645点、重量約100kg、3区で837点、重量約208kgであり、遺跡全体での総点数1950点、総重量531kgにのぼる。

4・5区での内訳は、鉄滓・鉄製品が約25kg、鉄床石・砥石・被熱石などの鍛冶具が約141kgである。このうち、112点の資料を構成し、構成外で被熱石などの関連資料を図示している(第60・61図)。遺物の特徴は、精錬工程の所産と考えられる1000gを超える大型の椀形鍛冶滓が多い点である。また、石製鍛冶具も4区を中心に出土しており平成17年度調査地3区と同様な状況となっている。鍛冶工房から約60m以上も離れている堀にわざわざ廃棄している状況から、おそらく堀全体が排滓場の役割を果たしていたものと考えられる。したがって、未調査地を含めた遺跡全体の鍛冶関連遺物の数量・重

量は現在の倍以上にのぼるものと推定される。

遺跡から出土した鉄製品の総数は125点である。その内訳は、鍛造品の工具として釘が最も多く39点、刀子7点、鋸3点、ヤリガンナ2点、武具の刀1点、鍬4点、釣針2点、不明品3点、鋳造品は鍋4点で全体の傾向として工具類が主体となっている。鍛冶工房域から出土した鉄製品は総数7点、そのうち3点は鍛冶炉1脇のP1から出土している。いずれも釘やその未製品であり、炭素量の高い鉄塊を除滓・脱炭する精錬鍛冶のほかに、工具類の製作や修復など鍛錬鍛冶が行われていたものと考えられる。

このことは、平成17年度調査で実施した鉄塊系遺物、鉄滓、粒状滓・鍛造剥片、鉄製品の金属学的分析でも明らかとなっている(小口2007)。以下、その要点をまとめる。

- ①構成資料や分析試料からは製錬滓に該当するものは認められず、製錬遺跡は本遺跡とは別の場所に存在することが指摘できる。
- ②鍛冶鉄塊系遺物は炭素量が低く、鍛冶炉によって不純物の成分調整のための精錬・鍛錬鍛冶がなされていたことが明らかとなった。
- ③鍛冶滓の多くが、精錬鍛冶工程で生成されたものである。

次に、操業規模と内容について県内における鍛冶関連遺跡と比較してみたい。中世前期の集落遺跡である鳥取市円護寺坂ノ下遺跡からは、掘立柱建物に伴う5基の鍛冶炉が検出されているが、回収された鋳造・鍛冶関連遺物はわずか11kg、鍛錬鍛冶工程が主体であったことが金属学的分析により明らかとなっている。日南町霞牛ノ尾遺跡では鍛冶炉は未検出であるが、中世後期の鉄滓溜を中心に鍛冶関連遺物117点、総重量約58kgが出土している。金属学的分析により、精錬から鍛錬鍛冶が一貫して行われていることが明らかとなっている。大山町門前鎮守山遺跡⁽³⁾では11～12世紀の段状遺構から椀形鍛冶滓、粒状滓・鍛造剥片、羽口、鉄床石など54点、総重量約2kgが出土している。さらに、隣接する門前上屋敷遺跡では包含層中から13～15世紀に比定される鍛冶関連遺物143点、総重量約6kgが回収された。円護寺坂ノ下遺跡のような鍛錬鍛冶を主眼に置いている遺跡や、門前鎮守山遺跡のような小規模な鍛冶操業であるなど遺跡によってその状況は異なるようである。いずれにしても、南原千軒遺跡が大規模かつ組織的に鉄素材と鉄製品を生産していたことが、これらの遺跡を見ても窺えるのである。

4. 居館の構造

これまでの南原千軒遺跡の調査をまとめると、平成16年度は主殿や墓を中心とした屋敷地主要部の調査、平成17年度は鍛冶工房域の調査、平成19年度は堀と館外の調査に分けることができる。そこで、居館としての南原千軒遺跡の構造について整理する。

(1) 堀

「堀と土塁に回繞された政治的かつ生活的空間」(広瀬2006)と領主居館を定義するならば、南原千軒遺跡は土塁の痕跡こそ確認されなかったが、領主居館の可能性をもつ有力候補である。広瀬和雄は、領主居館を形状・規模・構造などの諸要素から、いくつかに分類を行っているが、これまで「方形居館」と呼ばれてきたものをA型居館とし、方1町ものをA1型、方半町ものをA2型とする(広瀬前掲)。南原千軒遺跡は検出された東西の堀が80m以上に及ぶことから方1町規模のA1型に相当する。屋敷地の東には勝田川が北流するため、堀は四辺ではなく、勝田川を後背とした「コ」字状を呈する可能性

が高い。

回繞する堀は幅約2.5～3m、深さ1～1.5mで、堀底には仕切りのようなブリッジ状の高まりがあり、埋土はシルト層や砂質土であることから水が溜められた状態にあった可能性がある。また、日野尚志によって復元された調査地西側の条里地割と堀の方位が合致することから、条里地割に規制されていることが窺われる(日野1990)。中世前期の居館の多くが、条里地割が施行された平野に営まれること、当該期の屋敷地が1町程度の空間を占有することにも符合する。このようなA1型居館は、近畿およびその周辺では12世紀末頃に出現するようであり、南原千軒遺跡も出現期の居館として位置づけられる。

(2) 居館の内部構造

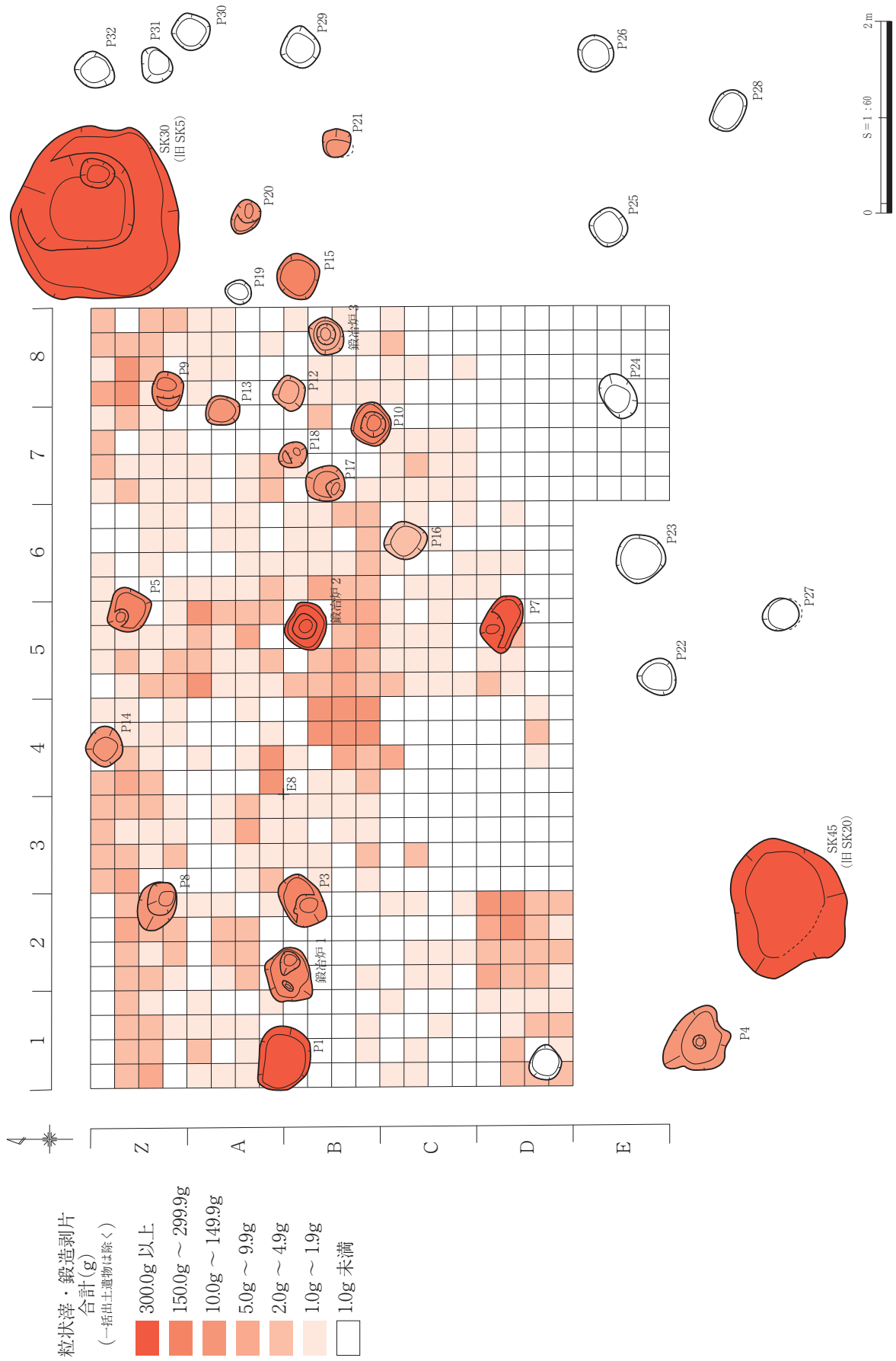
これまでの調査によって、居館内部の半分ほどが明らかになったにすぎないが、主要構造はある程度判明しているものと考えられる。まず、堀の南と西の2ヶ所から土橋状の入り口が確認されている。このうち西側の土橋の両脇には4基ずつのピットが配列され、そこから約4m東側に3間×3間の建物SB6がある。ピット列は柵の可能性が想定され、SB6は柱間が狭く小規模であることから、出入口に付随する見張り所のような施設だった可能性を想定したい。

屋敷地の東寄りに主殿としての大型建物2棟がある。SB1は桁行5間、梁行2間の庇付総柱建物で、底部分を含めた面積は約78㎡である。柱穴には唐から北宋に至る銅銭4枚(開元通寶、至道元寶、元祐通寶、元豊通寶)が確認されていることから、地鎮のために埋納されたものと考えられる(西川2005)。SB2は桁行5間、梁行2間の庇付総柱建物で、底部分を含めた面積は約66㎡である。両者は約18m離れ、軸線の交わる角度が80°と直交しない。さらに、SB2の南東には桁行3間、梁行1間、面積約14㎡の小規模建物がある。このような建物群は北側の調査地外にも存在するものと想定される。また、2区西側から4区にかけて遺構が稀薄なのは、この周辺が大きな削平や攪乱を受けていたためであり、本来はさらに建物などが存在していた可能性がある。

大型建物の周囲には大小の25基以上の土坑が散在し、日常雑器や鉄器などが大型礫を伴って廃棄されている。土坑は約1～2.5mの中小型、6m以上の大型⁽⁴⁾のものに分かれ、形態はさまざまである。とくに口縁を意図的に打ち欠いた土師器坏・小皿が多いことから、儀式に伴う宴会などで消費されたものが廃棄されたのであろうか。

大型建物SB1の約10m東側に屋敷墓がある。長軸約1.7m、短軸約1m、深さ約20cmの長方形を呈し、和鏡1面と輪状鉄製品が出土している。和鏡は山吹双鳥鏡であり、紐座は振菊座となる。文様構成や紐座の形態などから12世紀半ば頃の製作と考えられる(西川2005)。なお、橋田正徳によると屋敷墓は主に百姓層(名主層)に受容されたことを論じているが(橋田1991)、狭川真一は、12世紀後半から13世紀中頃に西日本で主体的に見出される屋敷墓造営の主体者を在地領主層と想定している(狭川2006)。

館内のほぼ中心部には、東西約11m、南北約8mの範囲に鍛冶炉を中心とした工房跡が検出された。明確な上屋は確認されていないが、鍛冶炉3基が東西方向に並んでおり、周囲には関連ピット約30基が付随する。工房内には、鍛冶関連遺物が一括廃棄された土坑が1基あり、鉄塊系遺物、椀形鍛冶滓、鉄床石、石鎚、砥石、被熱礫と白磁碗Ⅳ類と中森分類Ⅲ期の土師器小皿が共伴している。また、堀に廃棄された椀形鍛冶滓2点の放射性炭素年代測定(AMS法)の結果では、9世紀末から11世紀前半、11世紀中頃から13世紀前半の暦年代が出されている。



第65図 鍛冶工房出土微細遺物重量分布図

5. 南原千軒遺跡の性格と意義

県内および周辺地域における館跡を概観してみたい。現在中世の館跡⁽⁵⁾とされる遺跡は36遺跡を数えるが、その全容が窺える遺跡は数少ない(山川2002、錦織2004)。館跡と断定はできないまでも、溝の規模と形状から推測されるものを見ていきたい。鳥取市秋里遺跡には、長さ約26m、幅約2m、深さ約0.7m箱掘状の溝があり、鍋や土師器小皿が数多く出土している。古代～室町時代まで断続的に掘り返しが行われていることから、条里制地割溝の可能性もあろう(山柁1990)。琴浦町井岡地頭遺跡には、11世紀から12世紀初めの方形区画溝がある。その規模は25×50m、幅約2m、深さ約1mを測る箱掘状の溝である。区画内からは同時期の建物跡は検出されず、わずかに礎石の可能性のある礫群が出土している。報告では、日常的な館的性格より、見張り所のような臨時的・非日常的な性格を想定する(君嶋2003)。大山町門前上屋敷遺跡では、鎌倉から室町期の箱掘状の溝が検出されている。その規模は、長さ20m、幅約2～3m、深さ0.67mを測り、時代や形状とも南原千軒遺跡と類似する。溝に伴う建物跡は検出されていないが、土塁の痕跡や直交する柵列、溝などの存在から屋敷地の区画溝と想定されている(牧本2007)。

県外に目を向けると、鳥根県出雲市蔵小路西遺跡で12世紀後半から15世紀前半頃の方1町規模の方形居館が検出されている。東西に並行する大溝と区画内には掘立柱建物や墓、井戸、土坑などが配置され、貿易陶磁や国産陶磁、土師器、鍛冶関連遺物、木製品など数多くの遺物が出土し、中世朝山氏惣領家の屋敷と想定されている(足立ほか1999)。また、岡山県苫田郡鏡野町久田堀ノ内遺跡は、「久田庄」に比定される居館である(弘田ほか2005)。およそ14世紀から16世紀にわたり3回堀が拡張されており、吉井川を後背として「コ」字状に堀がめぐっている。

上記の遺跡から類例を求めるならば、南原千軒遺跡は堀、大型建物や墓、鍛冶工房などの存在から、蔵小路西遺跡や久田堀ノ内遺跡に類似する。これらの遺跡は在地領主層の居館と想定されており、本遺跡も勝田川流域を治めた領主層クラスの屋敷であったと考えられる。

おわりに

本遺跡の性格について、君嶋俊行は文献史料の検討から「勝田荘」と関連づけ荘園遺跡として推定している。(君嶋2005・2006)。遺跡周辺には「上公文給」、「屋敷」などの小字名が残り、確かに荘域に含まれる可能性がある(第4図)。また、伯耆国は鉄を貢納していた荘園が多いことで知られていることから、その可能性を持つ遺跡の1つであるかもしれない(福田1996)。いずれにしても、現状では直接的な証拠がないため推測の域を出ないが、居館の構造と鍛冶操業の規模・内容から見れば、少なくとも勝田川流域を治める在地武士団、在地領主層の屋敷であった可能性は高い。本地が大山を源とする豊富な水源と広い可耕地があり、さらに山陰道の近傍であること、潤沢な鉄資源に恵まれている点が、居館の選地条件を満たしたものと考えられる。

本報告にあたり、穴澤義功氏、君嶋俊行氏、佐伯純也氏、佐々木稔氏、中森 祥氏、西尾克己氏、浜野浩美氏、山本信夫氏の諸氏から有益なご教示をいただいた。末筆ながら厚く御礼を申し上げる次第である。

【註】

- (1) 貿易陶磁については山本信夫氏にご教示いただいた。
- (2) なお、榊原博英氏によれば中世前期における都市部の貿易陶磁の㎡当たりの出土数は、博多で25点、大宰府で3.1点、鎌倉で1.5点、平安京中枢部で1.18点である(2006年山陰考古学研究集会での口頭発表による)。
- (3) 門前上屋敷遺跡、門前鎮守山遺跡の数量・重量は報告書掲載資料のみから算出したものである。調査担当者の牧本哲雄氏によれば、いずれも総数はコンテナ数10箱程度であったとのことである。
- (4) 平成16年度調査報告では中世前期の竪穴住居と報告されているが、ここでは大型サイズの廃棄土坑として理解する。
- (5) 錦織 勤氏が集成した県下の平城32ヶ所に新たにその可能性のある鳥取市秋里遺跡、北栄町殿屋敷遺跡、琴浦町南原千軒遺跡、大山町門前上屋敷遺跡を加えた数である。

【参考文献】

- 足立克己ほか1999『蔵小路西遺跡』鳥根県教育委員会
- 大川泰広編2004『鳥取県中世城館分布調査報告書(伯耆編)』第2集 鳥取県教育委員会
- 小口英一郎2007「第2節 南原千軒遺跡における鉄・鉄器生産の様相」『南原千軒遺跡2』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書13 鳥取県埋蔵文化財センター
- 加藤裕一2007「因幡・伯耆の調理具」『山陰における中世の調理具』第6回山陰中世土器検討会資料集 山陰中世土器検討会
- 橘田正徳1991「屋敷墓試論」『中近世土器の基礎研究』Ⅶ 日本中世土器研究会
- 君嶋俊行編2003『井岡地頭遺跡・井岡地中ソネ遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告書80 (財)鳥取県教育文化財団
- 君嶋俊行編2005『南原千軒遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告100 (財)鳥取県教育文化財団
- 2006「鳥取県琴浦町南原千軒遺跡の調査」『山陰における中世前期の諸様相』第5回山陰中世土器検討会資料集 山陰中世土器検討会
- 榊原博英2006「中世前期の貿易陶磁の様相」『山陰における中世前期の諸様相』第5回山陰中世土器検討会資料集 山陰中世土器検討会
- 狭川真一2006「墓制の画期と地域」小野正敏・萩原三雄編『鎌倉時代の考古学』高志書院
- 重根弘和2003「中世備前焼に関する考察－形態と変遷と年代について－」『山口大学考古学論集』近藤喬一先生退官記念事業会
- 2005「中世備前焼に関する考察－製作技法から－」『古文化談叢』第54集
- 白石 純2005「南原千軒遺跡出土土器の胎土分析」『南原千軒遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告100 (財)鳥取県教育文化財団
- 谷口恭子編2000『円護寺坂ノ下遺跡』(財)鳥取市教育福祉振興会
- 玉木秀幸2006「伯耆の土器様相」『山陰における中世前期の諸様相』第5回山陰中世土器検討会資料集 山陰中世土器検討会
- 中野晴久2005「常滑・渥美」『中世窯業の諸相－生産技術の展開と編年－』「中世窯業の諸相－生産技術の展開－」実行委員会
- 中森 祥 2005「中世前期の遺物について」『門前上屋敷遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告書105 (財)鳥取県教育文化財団
- 中森 祥・濱 隆造編2001『霞遺跡群』鳥取県教育文化財団報告書73 (財)鳥取県教育文化財団
- 西川雄大2005「南原千軒遺跡SK2の出土遺物について」『南原千軒遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告100 (財)鳥取県教育文化財団
- 錦織 勤2004「鳥取県中世城館の特質」『鳥取県中世城館分布調査報告書(伯耆編)』第2集 鳥取県教育委員会
- 野口良也編2005『八幡遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告書99 (財)鳥取県教育文化財団
- 樋口和夫・松田雅彦編1988『殿屋敷遺跡』北条町埋蔵文化財報告書6 北条町教育委員会
- 広瀬和雄2006「領主居館の成立と展開」小野正敏・萩原三雄編『鎌倉時代の考古学』高志書院
- 弘田和司ほか2005『久田堀ノ内遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告192 岡山県教育委員会
- 福田豊彦1996「文献からみた鉄の生産と流通」『季刊考古学』57 雄山閣
- 牧本哲雄・玉木秀幸編2007『門前上屋敷遺跡Ⅱ・門前鎮守山城跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書17 鳥取県埋蔵文化財センター
- 森田 勉1982「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』2 日本貿易陶磁研究会
- 山川茂樹2002『鳥取県中世城館分布調査報告書(因幡編)』第1集 鳥取県教育委員会
- 山柁雅美編1990『秋里遺跡(西皆竹)』鳥取県教育文化財団報告書25 (財)鳥取県教育文化財団
- 山本信夫1998「中世前期の貿易陶磁器－その分析視点と近年の研究動向－」『山陰における中世前期の貿易陶磁器』第26回山陰考古学研究集会 山陰考古学研究集会
- 横田賢次郎・森田 勉1978「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』4

表19 南原千軒遺跡出土土器観察表(1)

遺物番号	採回PL	遺構層位	器種	部位残存率	法量	調整・形態上の特徴	胎土	色調	焼成	備考	取上No.
1	第9回 PL.22	4区・SD6 埋土	土師器 高台付杯	口縁～底部 1/2	口径※14.3 底径※6.0 器高3.0	口縁～高台部はヨコナデ調整。内外面赤色塗彩。高台内に「王?」墨書あり。	径1mm以下の白色砂粒	外面：赤褐色 内面：赤褐色	良好	墨書土器	170・175・179・180～182・187
2	第9回 PL.22	4区・SD6 埋土	土師器 高台付皿	口縁～底部 1/8	口径14.0 底径7.7 器高3.6	口縁～高台部はヨコナデ調整。内外面赤色塗彩。高台内に「王?」墨書あり。	径1mm以下の白色砂粒	外面：にぶい赤褐～橙色 内面：赤褐～黒褐色	良好	墨書土器	166～169・171～174・176～178・186
3	第9回 PL.21	4区・SD6 3層	土師器 坏身	口縁～底部 1/1	口径12.0 底径8.5 器高3.9	内外面回転ナデ調整。底面回転ヘラ切後、粗いナデ調整を施す。内外面赤色塗彩。	径1mm以下の白色砂粒	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	良好		31・252～258・261・263
4	第9回 PL.27	4区・SD6 1層	土師器 坏	口縁～底部 破片	口径※14.8 器高△4.3	口縁～体部はヨコナデ調整。外面底部には指押さえ痕あり。	径1mm以下の白色砂粒	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	良好		22
5	第9回 PL.25	4区・SD6 埋土	須恵器 甕	体部 破片	口径10.5 器高△10.5	外面平衡タタキ、内面は同心円状当て具痕。	密	外面：灰色 内面：灰色	良好		133
6	第12回 PL.24	4区・SD7 2層	土師器 皿	底部 破片	底径3.6 器高△1.0	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の長石	外面：橙～明赤褐色 内面：明赤褐色	良好		213
7	第12回 PL.23	4区・SD7 12層	土師器 皿	口縁～底部 破片	口径※10.0 器高△2.2	回転台成形。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の赤色砂粒	外面：赤褐色 内面：赤褐色	良好		227
8	第12回 PL.23	4区・SD7 8層	土師器 坏	体部～底部 1/5	底径※4.1 器高△2.1	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径5mm以下の長石	外面：黄橙～にぶい黄褐色 内面：橙色	良好		234
9	第12回 PL.23	4区・SD7 8層	土師器 坏	体部～底部 1/6	底径※5.4 器高△1.9	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	密	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好		408
10	第12回 PL.24	4区・SD7 8層	土師器 坏	底部 破片	底径※5.2 器高△1.1	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径3mm以下の赤色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好		207
11	第12回 PL.23	4区・SD7 5～8層	土師器 坏	底部 破片	底径※4.4 器高△1.3	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の白・赤色砂粒	外面：明黄褐色 内面：明赤褐色	良好		472
12	第12回 PL.23	4区・SD7 13層	土師器 坏	底部 破片	底径※4.5 器高△1.0	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の白・赤色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好		452
13	第12回 PL.23	4区・SD7 14層	土師器 坏	底部 破片	底径※5.8 器高△1.5	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径4mm以下の白・赤色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好		163・453
14	第12回 PL.23	4区・SD7 8層	土師器 坏	底部 破片	底径※6.2 器高△1.6	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径2mm以下の赤色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好		274
15	第12回 PL.24	4区・SD7 5層	土師器 坏	底部 破片	底径※6.8 器高△1.1	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径3mm以下の赤色砂粒	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好		301
16	第12回 PL.24	4区・SD7 検出面	土師器 坏	底部 破片	底径※4.7 器高△2.1	回転台成形、底部は回転糸切、円盤状高台。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の白・赤色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好		28
17	第12回 PL.23	4区・SD7 14層	土師器 坏	底部 破片	底径※7.0 器高△1.4	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径2mm以下の赤色砂粒	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好		232
18	第12回 PL.23	4区・SD7 8層	土師器 坏	底部 破片	底径※6.8 器高△2.4	回転台成形、底部は回転糸切、円盤状高台。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の長石・石英	外面：黄褐色 内面：黄褐色	良好		219
19	第12回 PL.23	4区・SD7 14層	土師器 坏	体部～底部 破片	底径※6.6 器高△1.9	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の白・赤色砂粒	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好		225
20	第12回 PL.24	4区・SD7 8層	土師器 坏	体部～底部 破片	底径※7.8 器高△1.7	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径3mm以下の赤色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好		200
21	第12回 PL.23	4区・SD7 5～8層	土師器 坏	体部～底部 1/4	底径※9.0 器高△2.3	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径3mm以下の赤色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好		474
22	第12回 PL.26	4区・SD7 5層	常滑焼 甕	口縁～頸部 破片	口径※8.5 器高△8.5	中野瀬年6～7型式。口縁端部がやや外側下部に張り出し、内面には凹線がめぐる。内外面ヨコナデ調整。	径2mm以下の長石・石英	外面：褐色 内面：褐～暗褐色	良好		308
23	第12回 PL.26	4区・SD7 8層	備前焼 小壺	肩～体部 破片	口径※9.0 器高△2.9	内外面ともヨコナデを施す。肩部に自然釉あり。	密	外面：暗褐色 内面：褐～黒褐色	良好		398
24	第12回 PL.25	4区・SD7 6層	須恵器 甕	体部～底部 1/8	口径※6.0 器高△6.0	勝間田系。外面格子状タタキ後、部分的に粗いナデ調整。内面ハケム調整を施す。	密	外面：褐灰色 内面：褐灰色	良好		314
25	第12回 PL.26	4区・SD7 埋土	備前焼 播鉢	口縁部 破片	口径※20.6 器高3.9	乘国編年中世3期。重根IV A。外割き状の口縁部がやや張り出す。外面口縁～体部はヨコナデ。内面はヨコナデ後、描目が付く。	径5mm以下の長石	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	良好		197
26	第12回 PL.26	4区・SD7 8層	備前焼 播鉢	口縁～体部 破片	口径※28.8 器高△9.5	乘国編年中世3期。重根IV A。外割き状の口縁部がやや張り出す。外面口縁～体部はヨコナデ。内面はヨコナデ後、8本1単位の描目。	径1mm以下の長石・石英	外面：灰褐～黒褐色 内面：褐～暗褐色	良好		407
27	第12回 PL.25	4区・SD7 8層	須恵器 壺	体部～底部 1/8	底径※19.8 器高△5.0	勝間田系? 外面粗いヨコナデ調整、内面丁寧なヨコナデ調整。底面未調整。	径3mm以下の長石	外面：灰色 内面：灰色	良好		432
28	第12回 PL.24	4区・SD7 6層	土師器 鍋	口縁～体部 1/6	口径※23.2 器高△8.5	口縁部が肥厚し、端部が外削状を呈する。内外面ともヨコナデを施す。外面に煤付着。	径1mm以下の長石・石英	外面：にぶい黄橙～にぶい 内面：にぶい橙～褐色	良好		298
29	第13回 PL.6	4区・SD7 4層	白磁碗	体部～底部 1/5	底径※7.2 器高△1.9	白磁碗IV 1a類。高台厚く、外面体部下と高台内は露胎。内面は施釉で、体部と見込みの境に沈線状の段を有する。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		216
30	第13回 PL.6	4区・SD7 5層	青磁碗	体部下 破片	口径※11.8 器高△2.1	龍泉窯系青磁碗IV類～上田B II類。体部下～高台近くの破片。	密	外面：オリーブ灰 内面：オリーブ灰	良好		313
31	第13回 PL.6	4区・SD7 8層	青磁碗	体部 破片	口径※11.8 器高△3.2	龍泉窯系青磁碗IV類～上田B II類。体部に連弁文を有する。	密	外面：灰オリーブ色 内面：灰オリーブ色	良好		398
32	第13回 PL.6	4区・SD7 8層	青磁碗	体～底部 破片	底径※8.7 器高△3.8	龍泉窯系青磁碗上田B II類。高台部も施釉。釉は畳付を越えて高台内面途中までかかる。	密	外面：灰オリーブ～褐色 内面：オリーブ灰色	良好		401
33	第13回 PL.6	4区・SD7 埋土	白磁皿	口縁～体部 破片	口径※9.5 器高△2.0	白磁碗森田D群。外面体部上半施釉、下半露胎。内面施釉。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		195
34	第20回 PL.24	4区・SD19 2層	土師器 坏	底部 破片	底径※6.0 器高△2.0	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径2mm以下の白・赤色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好		127
35	第20回 PL.24	4区・SD19 埋土中	土師器 高台付杯	底部 破片	底径※5.0 器高△2.8	回転台成形、高台内ナデ調整。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の白色砂粒	外面：橙～明褐色 内面：にぶい黄褐色	良好		156
36	第20回 PL.25	4区・SD19 2層	須恵器 甕	体部～底部 破片	底径※11.8 器高△4.9	内外面ヨコナデ調整を施す。円盤状の底部と体部の接合痕あり。内面には薄く筋が付着する。	径1mm以下の長石・石英	外面：青灰色 内面：青灰色	良好		83
37	第20回 PL.6	4区・SD19 1層	青磁碗	体部～底部 1/5	口径※11.8 器高△2.1	龍泉窯系青磁碗IV類。高台部欠損。高台内は施釉後、削り取られる。内面見込みに草花文あり。	密	外面：明緑灰～灰色 内面：明緑灰色	良好		75
40	第29回 PL.6	4区・P533 埋土	白磁皿	口縁～体部 1/4	口径※9.0 器高△1.3	白磁皿森田D群。外面体部下は露胎。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		498
41	第29回 PL.21	4区・P569 検出面	須恵器 坏身	口縁～底部 1/3	口径12.3 底径7.2 器高3.9	外面は口縁～体部は回転ナデ、底部は回転ヘラズリ。内面は回転ナデ調整。	径2mm以下の白色砂粒	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		475
42	第32回 PL.27	4区・C13 II層	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	口径※11.8 器高△2.4	口縁部には2本の平行沈線がめぐる、その間にRL縄文が充填される。内面はナデ調整が施される。	径2mm以下の長石・石英	外面：黒褐色 内面：にぶい黄褐色	良好		447

表20 南原千軒遺跡出土土器観察表(2)

遺物番号	挿入PL	遺構層位	器種	部位 残存率	法量	調整・形態上の特徴	胎土	色調	焼成	備考	取上No.
43	第32図 PL.27	4区・D12 II層	弥生土器	口縁部破片	- 器高△3.7	口縁部が外側に屈曲し、端部に刻みが施される。頸部は櫛状工具による多条平行沈線がある。	径1mm以下の白色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好		506
44	第32図 PL.27	4区・D13 II層	弥生土器	口縁～肩部破片	口径※14.5 器高△4.6	口縁部には8条の多条平行沈線がめぐり、肩部に櫛状沈線が施される。内面は口縁部ミガキ、頸部ヘラケズリ後ミガキ調整。	径1mm以下の白色砂粒	外面：橙色 内面：にぶい橙～橙色	良好		160
45	第32図 PL.27	4区・D13 II層	弥生土器	口縁～頸部破片	口径※15.8 器高△3.9	口縁部には6条の多条平行沈線が施される。頸部はヨコナデ。 内面口縁部はヨコナデとミガキ調整、頸部ヘラケズリ調整。	径1mm以下の長石	外面：にぶい黄橙～橙色 内面：にぶい黄橙～橙色	良好		243
46	第32図 PL.27	4区・D12 II層	土師器	口縁～頸部破片	口径※14.6 器高△4.2	内外面は口縁～頸部ヨコナデ調整。外面に煤付着。	径1mm以下の白色砂粒	外面：明黄褐色 内面：明黄褐色	良好		507
47	第32図 PL.27	4区・D13 II層	土師器	口縁～頸部破片	口径※15.7 器高△4.0	複合口縁調整。内外面とも口縁部～頸部ヨコナデ調整を施す。	径3mm以下の長石	外面：浅黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好		122
48	第32図 PL.25	4区・F13 II層	須恵器	口縁～底部1/3	口径※11.0 底径※4.4 器高△3.2	口縁部～体部は回転ヨコナデ、底部は回転ヘラケズリ。 内面は口縁～底部は回転ナデ調整。	径3mm以下の長石	外面：黄灰色 内面：黄灰色	良好		437
49	第32図 PL.25	4区・G13 II層	須恵器	天井～口縁部1/4	口径※16.9 器高△2.4	天井部回転ヘラケズリ後、ナデ調整を施す。内面は回転ナデ調整。つまみ剥落。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		491
50	第32図 PL.21	4区・F13 II層	須恵器	口縁～脚部1/2	口径※16.0 器高△15.8	坏部は内外面回転ヨコナデ。脚部外面はカキメ、部分的に指押さえ痕有り。 内面は回転ヨコナデ調整が施される。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		242・248
51	第32図 PL.25	4区・G12 II層	須恵器	体部破片	- 器高△7.3	外面平行タタキ、内面同心円状当て具痕残る。外面は自然軸が見られる。	密	外面：灰白色 内面：灰色	良好		8
52	第32図 PL.27	4区・D13 II層	土師器	口縁～体部破片	口径※14.8 器高△4.4	口縁～体部はヨコナデ調整。外面底部には指押さえ痕あり。	径1mm以下の白色砂粒	外面：赤褐色 内面：赤褐色	良好		188
53	第32図 PL.27	4区・D13 II層	土師器	口縁～体部破片	口径※17.8 △4.6	口縁部は緩やかに外反し、ナデ調整が施される。外面体部はケズリ後、ハケメ調整。内面はヨコナデ調整。	径1mm以下の長石	外面：明黄褐色 内面：明黄褐色	良好		514
54	第32図 PL.27	4区 表土	土師器	底部破片	底径※6.6 器高△1.1	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の長石	外面：橙～にぶい橙色 内面：橙～にぶい橙色	良好		1
55	第32図 PL.25	4区 II層	瓦質土器	体部破片	- 器高△4.8	外面はタテ方向のハケメ後、ナデ調整を施す。内面はヨコ方向のナデ後、ハケ調整。	密	外面：暗灰黄色 内面：暗灰黄色	良好		12
56	第32図 PL.27	4区・C12 II層	土師器	口縁～体部破片	- 器高△7.1	口縁部が外反し、体部が若干張る。口縁部はヨコナデ、体部は内外面ハケ調整を施す。 体部に煤が付着する。	径1mm以下の白色砂粒	外面：明黄褐～黒褐色 内面：橙色	良好	外面煤付着	242
57	第32図 PL.25	4区 表土	須恵器	体部破片	- 器高△9.8	藤岡田系。外面格子状タタキ、内面はハケメ調整を施す。	密	外面：灰色 内面：灰色	良好		1
58	第32図 PL.26	4区 表土	備前焼	口縁～体部破片	- 器高△8.2	乘岡編年中世3期。口縁部は外削状になる。口縁～体部はヨコナデ調整。内面はヨコナデ後、8本1単位の描目が付く。	径1mm以下の長石	外面：にぶい赤褐～黒褐色 内面：灰褐～暗赤褐色	良好		1
59	第32図 PL.26	4区・F13 II層	備前焼	口縁部破片	- 器高△4.0	乘岡編年中世3期。外削ぎ状の口縁部がやや張り出す。外面口縁～体部はヨコナデ。内面はヨコナデ調整を施す。	径1mm以下の長石	外面：赤褐色 内面：暗褐色	良好		26
60	第32図 PL.26	4区・G13 II層	備前焼	口縁～体部破片	- 器高△4.8	乘岡編年中世3期。外削ぎ状の口縁部がやや張り出す。外面口縁～体部ヨコナデ。内面はヨコナデ調整後、6本1単位の描目が付く。	径3mm以下の長石	外面：暗赤褐色 内面：暗赤褐色	良好		361
61	第32図 PL.26	4区・G13 II層	備前焼	口縁部破片	- 器高△5.0	乘岡編年中世4期。口縁部は「く」字状に内折する。外面口縁～体部はヨコナデ。内面はヨコナデ後、描目が付く。	径2mm以下の長石	外面：赤褐～暗赤褐色 内面：暗赤褐色	良好		361
62	第32図 PL.26	4区・B12 II層	備前焼	体部～底部1/8	底径※13.0 器高△6.5	乘岡編年中世3期？外面体部はヨコナデが施され、底面は未調整。 内面はヨコナデ後、8本1単位の描目が付く。	径3mm以下の長石	外面：にぶい黄褐色 内面：褐灰色	良好		445
63	第32図 PL.26	4区・F13 II層	備前焼	口縁部1/8	- 器高△8.0	乘岡編年中世4期。幅広い口縁部は「く」字状に屈曲し、注口をもつ。外面はヨコナデ。内面はヨコナデ後、太い描目が付く。	径2mm以下の長石	外面：明赤褐～暗赤褐色 内面：赤褐～暗赤褐色	良好		360
64	第32図 PL.26	4区・G13 II層	備前焼	口縁～体部破片	口径※27.0 器高△7.1	乘岡編年中世3期。外削ぎ状の口縁部がやや張り出す。外面口縁～体部はヨコナデ。内面はヨコナデ調整を施す。	径1mm以下の長石	外面：暗褐色 内面：暗褐色	良好		372
65	第33図 PL.6	4区・F14 II層	白磁	体部破片	- 器高△2.5	白磁碗森田C群。外面体部上半は施軸、下半は露胎。内面は見込みと体部の境に沈線、見込みにスタンプ文あり。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		516
66	第33図 PL.6	4区・G12 II層	白磁	口縁～体部破片	口径※9.6 器高△1.8	白磁皿森田D群。外面上半施軸、体部下半露胎。内面施軸。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		8
67	第33図 PL.6	4区・G14 II層	白磁	底部破片	底径※4.4 器高△1.3	白磁皿森田D群。挟りこみ高台で高台内は露胎。内面は施軸、四足胎土み残る。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		10
68	第33図 PL.6	4区・B12 II層	青磁	口縁部破片	- 器高△3.0	同家窯系青磁碗Ia類。外面は無文、内面体部上位に沈線がめぐり櫛状文が施される。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		456
69	第33図 PL.6	4区・F13 II層	青磁	口縁～体部破片	口径※14.4 器高△2.8	龍泉窯系青磁碗IV類。体部外面に蓮弁文を有する。	密	外面：明緑灰色 内面：明緑灰色	良好		388
70	第33図 PL.6	4区・G12 II層	雑釉陶器	底部破片	底径※39 器高△0.9	李朝皿。内外面全面施軸。高台あり。内面に重ね焼きの胎土目あり。	密	外面：緑灰色 内面：緑灰色	良好		3
71	第33図 PL.27	4区・G13 II層	灰釉陶器	口縁部破片	- 器高△2.7	口縁部が外反し、内外面施軸される。	密	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好		391
72	第40図 PL.24	5区・SD7 11層	土師器	口縁～底部1/6	口径※10.0 底径※7.6 器高△1.9	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の赤色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好		965
73	第40図 PL.24	5区・SD7 埋土	土師器	口縁～底部破片	口径※10.0 底径※5.0 器高△1.5	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径3mm以下の赤色砂粒	外面：橙色 内面：褐色	良好		820
74	第40図 PL.24	5区・SD7 9層	土師器	口縁～底部1/3	口径※8.3 底径※5.0 器高△2.0	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。 口縁から底部まで器壁が厚い。	径3mm以下の白・赤色砂粒	外面：浅黄褐色 内面：褐灰色	良好		970
75	第40図 PL.24	5区・SD7 埋土	土師器	口縁～体部1/4	口径※8.8 器高△2.2	回転台成形。内外面ともヨコナデを施す。器壁厚い。	径5mm以下の赤色砂粒	外面：褐色 内面：褐色	良好		960
76	第40図 PL.23	5区・SD7 11層	土師器	底部破片	底径※4.3 器高△1.2	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径5mm以下の白・赤色砂粒	外面：橙色 内面：褐色	良好		904
77	第40図 PL.24	5区・SD7 6層	土師器	底部1/3	底径※4.0 器高△1.1	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径2mm以下の赤色砂粒	外面：にぶい黄褐色 内面：褐色	良好		1087
78	第40図 PL.23	5区・SD7 3層	土師器	口縁～体部1/8	口径※14.2 器高△4.2	回転台成形。内外面ともヨコナデを施す。	径2mm以下の白・赤色砂粒	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	良好		1011
79	第40図 PL.23	5区・SD7 3層	土師器	口縁～体部破片	口径※14.2 器高△3.0	回転台成形。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の赤色砂粒	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	良好		1015
80	第40図 PL.23	5区・SD7 9層	土師器	体部～底部1/5	底径※6.4 器高△2.1	回転台成形、底部は回転糸切。内外面ともヨコナデを施す。	径3mm以下の赤色砂粒	外面：褐色 内面：灰黄褐色	良好		938

表21 南原千軒遺跡出土土器観察表(3)

遺物番号	挿図 PL	遺層	構位	器種	部位 残存率	法量	調整・形態上の特徴	胎土	色調	焼成	備考	取上No
81	第40図 PL.23	5区・SD7	埋土	土師器 環	底部～底部 1/3	底径※6.4 器高△2.6	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径2mm以下の赤色砂粒・雲母	外面：明黄褐色 内面：明黄褐色	良好		959
82	第40図 PL.23	5区・SD7	11層	土師器 環	体～底部 1/6	底径※7.4 器高△1.9	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径3mm以下の赤色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好		966・980
83	第40図 PL.23	5区・SD7	1層	土師器 環	底部～底部 1/5	底径※6.4 器高△1.7	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径3mm以下の赤色砂粒	外面：黄褐色 内面：浅黄褐色	良好		835
84	第40図 PL.23	5区・SD7	11層	土師器 環	底部 破片	底径※6.1 器高△1.3	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径3mm以下の赤色砂粒	外面：橙色 内面：にぶい橙色	良好		905
85	第40図 PL.23	5区・SD7	1層	土師器 環	底部 1/6	底径※6.4 器高△1.5	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径3mm以下の赤色砂粒	外面：浅黄色 内面：浅黄色	良好		1078
86	第40図 PL.23	5区・SD7	1層	土師器 環	底部 破片	底径※5.6 器高△1.2	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径2mm以下の赤色砂粒・雲母	外面：橙色 内面：橙色	良好		836
87	第40図 PL.23	5区・SD7	4層	土師器 環	底部 破片	底径※6.0 器高△1.3	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径3mm以下の赤色砂粒	外面：褐色 内面：褐色	良好		1012
88	第40図 PL.24	5区・SD7	検出面	土師器 環	底部 破片	底径※5.8 器高△1.3	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の赤色砂粒	外面：にぶい黄褐色 内面：黄褐色	良好		688
89	第40図 PL.23	5区・SD7	2層	土師器 環	底部 破片	底径※5.0 器高△1.1	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径2mm以下の赤色砂粒	外面：明褐色 内面：橙色	良好		837
90	第40図 PL.6	5区・SD7	埋土	白磁皿	口縁～底部 破片	口径※10.1 器高△2.6	白磁皿Ⅱ1類。口縁部丸く、内面体部と見込みの境に沈線状の段を有する。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		814
91	第40図 PL.6	5区・SD7	埋土	白磁皿	口縁～底部 1/4	口径※9.9 器高2.5 底径3.4	白磁皿Ⅵ1a類。体部～口縁部は器壁薄い。底部は上げ底状を呈し内面に沈線状の段を有する。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		813
92	第40図 PL.6	5区・SD7	埋土	白磁碗	口縁部 破片	— 器高△2.1	白磁碗Ⅱ類。口縁が外反気味に立ち上がり、小さな玉縁となる。内外面施釉。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		810
93	第40図 PL.25	5区・SD7	3層	須恵器 甕	体部 破片	— 器高△13.6	勝間田系。外面格子状タタキ後、ハケメによるナデ調整。内面はハケメ調整を施す。	密	外面：灰色 内面：灰色	良好		564・1019
94	第40図 PL.21	5区・SD7	1層	須恵器 甕	体部～底部 1/6	底径※14.6 器高△8.1	内外面ヨコナデ調整が施される。体部下半に粘土帯の積み上げ痕が残る。	径6mm以下の長石・石英	外面：灰色 内面：灰色	良好		1021
95	第40図 PL.24	5区・SD7	4層	土師器 鍋	口縁～体部 1/6	口径※22.2 器高△13.0	口縁部が緩やかに外反し、体部は球状に張る。内外面口縁部はヨコナデ、体部はハケ調整を施す。	径1mm以下の白色砂粒	外面：黒褐色 内面：にぶい黄橙～褐灰色	良好	内面煤付着	813・1008
96	第46図 PL.24	5区・SD20	1層	土師器 皿	口縁～底部 1/6	口径※8.0 底径※5.8 器高△1.8	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径3mm以下の赤色砂粒	外面：橙色 内面：褐色	良好		695
97	第46図 PL.24	5区・SD20	埋土	土師器 環	底部 1/4	底径※4.4 器高△1.1	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	密	外面：褐色 内面：にぶい黄褐色	良好		554
98	第46図 PL.24	5区・SD20	埋土	土師器 環	底部 1/4	底径※3.5 器高△1.2	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の長石	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好		651
99	第46図 PL.24	5区・SD20	埋土	土師器 環	底部 1/4	底径※5.4 器高△1.3	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の長石	外面：褐色 内面：褐色	良好		550
100	第46図 PL.24	5区・SD20	埋土	土師器 環	底部 1/8	底径※6.5 器高△1.6	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の赤色砂粒	外面：褐色 内面：褐色	良好		651
101	第46図 PL.25	5区・SD20	1層	須恵器 甕	体部 破片	— 器高△8.5	勝間田系。外面格子状タタキ、内面はハケメ調整を施す。	密	外面：黒褐色 内面：灰色	良好		700・701・702
102	第46図 PL.25	5区・SD20	埋土	須恵器 甕	体部～底部 1/8	口径※10.4 器高△3.9	勝間田系？外面ヘラズリ、底面ハケによるナデ調整を施す。内面はヨコナデ。	密	外面：灰色 内面：灰色	良好		550
103	第46図 PL.6	5区・SD20	埋土	白磁碗	底部 破片	底径※5.8 器高△1.9	白磁碗Ⅱ類。外面体部下半はヘラ削り痕が残り、底面まで露胎。内面は施釉、体部と見込みの境に段あり。	密	外面：灰白色(露胎部) 内面：淡黄色	良好		557
104	第46図 PL.6	5区・SD20	埋土	白磁碗	口縁～体部 破片	口径※16.4 器高△2.8	白磁碗Ⅳ1類。口縁は玉縁を呈し、内外面施釉。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		646
105	第46図 PL.6	5区・SD20	2層	白磁碗	口縁部 破片	— 器高△2.8	白磁碗Ⅳ1類。口縁は緩やかに立ち上がり、玉縁をもつ。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		649
106	第46図 PL.6	5区・SD20	2層	白磁碗	口縁部 破片	— 器高△2.0	白磁碗Ⅳ1類。口縁は緩やかに立ち上がり、大きな玉縁を有する。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		552
107	第46図 PL.6	5区・SD20	2層	白磁碗	口縁部 破片	— 器高△2.1	白磁碗Ⅳ1類。口縁は緩やかに立ち上がり、大きな玉縁を有する。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		591
108	第46図 PL.6	5区・SD20	2層	白磁碗	口縁部 破片	— 器高△1.6	白磁碗Ⅳ1類。口縁は緩やかに立ち上がり、大きな玉縁を有する。	密	外面：明オリーブ灰色 内面：明オリーブ灰色	良好		550
109	第46図 PL.6	5区・SD20	2層	白磁碗	体部 破片	— 器高△2.6	白磁碗Ⅳ類か。外面体部下半は露胎。内面体部と見込みの境に沈線状の段が付く。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		754
110	第46図 PL.6	5区・SD20	2層	白磁碗	体部～底部 破片	底径※7.8 器高△2.1	白磁碗Ⅳ1a類。外面体部下半から高台内は露胎。内面体部と見込みの境に沈線状の段を有する。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		720
111	第46図 PL.6	5区・SD20	埋土	白磁皿	底部 1/3	底径※3.8 器高△1.1	白磁皿Ⅶ1b類。軸は比較的厚く、底部の軸は削り取られている。内面見込みにはヘラ描きによる草花文を有する。	密	外面：灰白～オリーブ灰色 内面：灰白～オリーブ灰色	良好		556
112	第46図 PL.6	5区・SD20	埋土	青白磁皿	体部 破片	— 器高△2.9	白磁皿Ⅹ1類。施釉は薄く上質である。体部下半は露胎。内面体部と見込みの境に圈線を有する。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		569
113	第46図 PL.6	5区・SD20	埋土	青磁皿	口縁～体部 破片	口径※10.5 器高△1.4	同安窯系青磁皿Ⅰ1類。口縁部が外反し、内外面無文。外面体部下半は露胎。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		569
114	第46図 PL.6	5区・SD20	埋土	青磁碗	口縁部 1/8	— 器高△3.4	同安窯系青磁碗Ⅰ1b類。内面上位に沈線がめぐり、描目が入る。軸は薄い。	密	外面：灰オリーブ色 内面：灰オリーブ色	良好		569
115	第46図 PL.6	5区・SD20	埋土	青磁碗	口縁部 破片	— 器高△2.4	龍泉窯系青磁碗0類。外面拂描文、内面劃花文あり。	密	外面：オリーブ灰色 内面：オリーブ灰色	良好		589
116	第46図 PL.6	5区・SD20	1層	青磁碗	体部～底部 1/6	底径※5.8 器高△2.9	龍泉窯系青磁碗上田Ⅱ類。高台内は露胎を有する。施釉厚く、高台内の軸を輪状の削り取る。内面に草花スタンプ文。	密	外面：オリーブ灰色 内面：オリーブ灰色	良好		699
117	第46図 PL.27	5区・SD20	埋土	瀬戸？ 碗	体部～底部 1/8	底径※8.8 器高△2.2	瀬戸・美濃系？	密	外面：明オリーブ灰色 内面：明オリーブ灰色	良好		552
118	第48図 PL.24	5区・SD21	埋土	瓦質土器 播鉢	口縁～体部 破片	口径※29.0 器高△4.5	口縁部が外削り状を呈し、肥厚する。外面はナデ・ハケ調整。内面はハケ調整後、4本1単位の描目が付く。在地系播鉢か。	密	外面：明黄褐色 内面：明黄褐色	不良		596
119	第48図 PL.21	5区・SD21	埋土	須恵器 甕	口縁～肩部 1/6	口径※10.4 器高△3.0	内外面ヨコナデ。外面に自然釉付着。	密	外面：灰白～灰色 内面：灰色	良好		643
120	第48図 PL.6	5区・SD21	埋土	白磁碗	口縁部 破片	口径※16.4 器高△1.7	白磁碗Ⅴ～Ⅶ類。口縁部が外折し、内外面施釉。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		589

表22 南原千軒遺跡出土土器観察表(4)

遺物番号	挿図 PL	遺層 構位	器種	部位 残存率	法量	調整・形態上の特徴	胎土	色調	焼成	備考	取上No.
121	第50図 PL.24	5区・SK59 2・3層	土師器 皿	口縁～底部 破片	口径※10.0 底径※5.2 器高△2.2	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の白色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好		598・602
122	第50図 PL.24	5区・SK60 1層	土師器 坏	体部～底部 1/4	底径※6.2 器高△2.1	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径2mm以下の赤色砂粒	外面：黄橙色 内面：黄橙色	良好		610
123	第50図 PL.24	5区・SK60 1層	土師器 坏	底部 破片	底径※5.0 器高△1.4	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の長石	外面：黄褐色 内面：黄褐色	良好		606
124	第50図 PL.24	5区・SK60 2層	土師器 柱状高台付坏	底部 1/4	底径※6.0 器高△2.9	回転成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径1mm以下の白色砂粒	外面：明黄褐色 内面：明黄褐色	良好		635
125	第50図 PL.24	5区・SK60 2層	土師器 坏	体部～底部 1/2	底径※8.2 器高△3.6	回転台成形、底部は糸切り後ナデ調整。内外面ともヨコナデを施す。内面底の一部に指押しえ痕あり。	径2mm以下の赤色砂粒	外面：橙～褐灰色 内面：黄褐色	良好		614
126	第50図 PL.25	5区・SK60 1層	須恵器 甕	体部 破片	— 器高△6.3	内面は細かい格子状タタキ、内面は同心円状の当て具痕あり。	密	外面：褐灰色 内面：褐灰色	良好		605
127	第53図 PL.21	5区・P621 1層	土師器 甕	口縁～体部 破片	口径※13.2 器高△6.5	複合口縁甕。内外面摩擦が著しく、調整不明。	径2mm以下の長石・石英	外面：黄褐色 内面：黄褐色	良好		863
128	第53図 PL.6	5区・P679 1層	白磁 皿	口縁～底部 1/2	口径※8.6 底径※4.4 器高△1.9	白磁皿森田D群。外面高台畳付きから高台内と内面見込みは露胎。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		762・764・977
129	第53図 PL.6	5区・P675 埋土	白磁 碗	体部 破片	— 器高△1.7	白磁碗Ⅳ～Ⅶ類。外面体部下半は露胎。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		867
130	第57図 PL.27	5区・C14 Ⅱ層	土師器 皿	口縁～底部 破片	口径※14.2 底径※11.8 器高△1.6	外面口縁～底部はミガキ調整を施す。内面はヨコナデ調整。内外面赤色塗彩。	密	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	良好		890
131	第57図 PL.27	5区・C13・14 Ⅱ層	土師器 坏	底部 破片	底径※5.6 △1.2	回転台成形、底部は回転系切。内外面ともヨコナデを施す。	径2mm以下の赤色砂粒	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	良好		668
132	第57図 PL.21	5区・D14 Ⅱ層	須恵器 高坏	脚部 1/2	— 器高△4.8	外面ナデ、内面ケズリ後ナデを施す。脚部は2対の透し孔。	密	外面：黄灰色 内面：黄灰色	良好		791
133	第57図 PL.21	5区 表土	須恵器 長頸甕	頸～肩部 破片	— 器高△10.2	外面頸部はカキメ調整が施され、肩部に自然軸を有す。内面はヨコナデ調整。	密	外面：青灰色 内面：青黒色	良好		531・534
134	第57図 PL.25	5区・D15 1層	須恵器 甕	体部 破片	— 器高△7.9	勝間田系。外面格子状タタキ、内面はナデ調整を施す。	密	外面：淡黄色 内面：淡黄色	良好		729
135	第57図 PL.25	5区・C15 2層	須恵器 甕	底部 破片	底径※17.0 器高△5.3	勝間田系。外面格子状タタキ、内面はハケメ調整を施す。底面未調整。	密	外面：灰色 内面：灰色	良好		746
136	第57図 PL.26	5区・D15 Ⅱ層	備前焼 播鉢	体部～底部 破片	— 器高△4.5	乘岡編年中世3期。外面は体部と底部の境に浅い窪みがめぐる。内面には8本1単位の播目が付く。	径1mm以下の長石・石英	外面：にぶい赤褐色 内面：にぶい赤褐色	良好		761
137	第57図 PL.26	5区・D15 1層	備前焼 播鉢	口縁～体部 破片	口径※32.0 器高△7.3	乘岡編年中世3期。外割ぎ状の口縁部がやや張り出す。外面口縁～体部ヨコナデ。内面はヨコナデ後、6本1単位の播目が付く。	径5mm以下の長石・石英	外面：にぶい赤褐色 内面：暗赤褐色	良好		697
138	第57図 PL.26	5区・C15 Ⅱ層	備前焼 播鉢	口縁～体部 破片	口径※32.0 器高△7.5	乘岡編年中世3期。外割ぎ状の口縁部がやや張り出す。外面口縁～体部はヨコナデ。内面はヨコナデ後、8本1単位の播目が付く。	径3mm以下の長石・石英	外面：にぶい赤褐色 内面：にぶい赤褐～淡黄色	良好		750
139	第57図 PL.25	5区・D15 1層	瓦質土器 風炉	口縁部 破片	— 器高△5.9	風炉体部。透孔端部に山形状突起が付く。外面には断面台形状の突帯2条。	密	外面：灰色 内面：灰色	良好		698
140	第57図 PL.6	5区 表土	黒釉 碗	体部～底部 1/5	底径※3.5 器高△2.0	黒釉陶器碗。外面体部下半から底部は露胎。外面体部と底部の境に屈折し稜が付く。釉は薄い。	密	外面：灰黄色(露胎部) 内面：黒褐色	良好		536
141	第57図 PL.6	5区 表土	白磁 碗	底部 破片	底径※6.8 器高△1.8	白磁碗Ⅳa類。外面体部下半から高台内は露胎。高台は幅広、削り出し浅い。内面体部と見込みの境に沈線あり。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		534
142	第57図 PL.6	5区・C15 Ⅱ層	白磁 皿	口縁～体部 破片	口径※12.8 器高△2.1	白磁皿Ⅱ類。口縁がほぼ直線的に開く。内外面施釉。	密	外面：灰白色 内面：灰白色	良好		690
143	第57図 PL.6	5区・E17 Ⅱ層	青磁 碗	体部 破片	— 器高△3.2	同安窯系青磁碗Ⅰ1b類。外面は撫描文、内面はヘラ描の草花文を施す。	密	外面：オリーブ灰色 内面：オリーブ灰色	良好		782
144	第57図 PL.6	5区・C14 Ⅱ層	青磁 碗	底部 破片1/3	底径※5.6 器高△2.3	龍泉窯系青磁碗上田BⅡ～Ⅳ類。高台内面途中まで釉がかかる。高台下部外面の斜め面取りあり。	密	外面：明オリーブ灰色 内面：明オリーブ灰色	良好		793
145	第57図 PL.27	5区・C13・14 Ⅱ層	唐津焼 甕	口縁部 破片	口径※22.6 器高△3.8	口縁部が大きく開き、口縁端部が内折する。	密	外面：暗赤褐色 内面：暗赤褐色	良好		668

表23 南原千軒遺跡出土土製品観察表

遺物番号	挿図 PL.	地区・遺構層位	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重さ (g)	焼成	色調	特徴	取上 No.
38	第20図 PL.21	4区・SD19 2層	土錘	2.7	2.7	1.9	12.4	良好	橙色	上下面は平坦面を形成し、外面は面取り痕がある。両側穿孔。	138
39	第20図 PL.21	4区・SD19 1層	土錘	2.9	2.8	2.3	17.6	良好	橙色	上下面は小範囲で平坦面を形成する。外面は丁寧なナデ調整。片側穿孔。	73
146	第57図 PL.21	5区 検出中	土錘	2.4	1.0	1.0	2.6	良好	にぶい黄橙色	紡錘形土錘。下半部欠損。表面ミガキ調整。	553
147	第57図 PL.21	5区・C14 II層	土錘	2.3	2.2	2.3	9.7	良好	にぶい橙色	上下面は平坦面を形成し、外面は面取り痕がある。片側穿孔。	797
148	第57図 PL.21	5区・C13 II層	土錘	3.0	3.0	2.8	15.0	良好	浅黄橙色	上下面は平坦面を形成し、外面は面取り痕がある。両側穿孔。	796

表24 南原千軒遺跡出土石器観察表

掲載番号	図面番号	地区・遺構層位	種別	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考	取上 No.
S1	第9図 PL.40	4区・E12 SD6・3層	石鏃	黒曜石	1.3	1.1	0.2	0.2		262
S2	第9図 PL.40	4区・D13 SD6・埋土中	石鏃	黒曜石	△1.4	△1.1	0.3	0.3	古欠	191
S3	第9図 PL.40	4区・E12 SD6・埋土中	剥片	硬質緑色凝灰岩	2.1	2.0	1.4	5.1	玉作関連資料。施溝分割による剥片残滓。一部二次加工。背面原礫または節理面で研磨あり。上面も分割後研磨。	31
S20	第33図 PL.40	4区・F12 II層	石鏃	黒曜石	1.7	1.4	0.3	0.5		14
S21	第33図 PL.40	4区・D12・13 II層	石鏃	サヌカイト	△1.7	1.7	0.4	1.0	古欠	247
S22	第33図 PL.40	4区・F12 II層	楔形石器	黒曜石	2.6	1.6	1.2	5.8	左右側面剪断面。上下縁潰れ	42
S23	第33図 PL.40	4区・D13 II層	楔形石器	サヌカイト	3.1	1.8	0.6	3.1	右側面・左下縁に剪断面。上縁潰れ	145
S24	第33図 PL.40	4区・C12 II層	角柱状素材	硬質緑色凝灰岩	2.5	1.9	1.3	9.2	良質の碧玉を用いた玉作資料。裏面打剥による素材主剥離面(節理割れ)。他は施溝分割面。うち2面に擦り切り溝が残る。	381
S25	第33図 PL.40	4区・G13 II層	ブランク	硬質緑色凝灰岩	2.3	2.4	1.2	6.4	玉作関連資料。底面施溝分割後研磨。他は打撃剥離面。角柱状素材作成過程の残滓か。	395
S26	第40図 PL.40	5区・D14 SD7・2層	基石	珪質頁岩	1.9	1.6	0.7	3.4	漆黒色の玉石	844
S27	第46図 PL.40	5区・D15 SD20・埋土中	スクレイパー	サヌカイト	2.9	5.6	0.8	14.8	ガジリ	1110
S29	第57図 PL.40	5区・B14 II層	石鏃	黒曜石	△2.0	1.8	0.4	1.0	古欠	809

表25 南原千軒遺跡出土銅銭観察表

掲載番号	図面番号	取上 No.	地区グリッド	遺構名層位	銭種	径 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
C1	第29図 PL.30	500	4区 G13	P547 埋土中	熙寧元寶	2.4	0.15	1.3	字体真書。被熱しており、表面にタール状質が付着。銭名直接判読できない。

表26 南原千軒遺跡ピット計測表(遺構内)

調査区	グリッド	No.	長軸×短軸-深さ(m)	遺構	調査区	グリッド	No.	長軸×短軸-深さ(m)	遺構
4区	G13	P526	0.72×0.35-0.46	SB4-P1	5区	G12	P584	0.29×0.25-0.14	SA2-P1
		P535	0.43×0.36-0.31	SB4-P2			P556	0.27×0.25-0.18	SA2-P2
		P531	0.42×0.39-0.43	SB4-P3			P557	0.34×0.32-0.22	SA2-P3
		P544	0.35×0.31-0.19	SB4-P4		C14	-	0.55×0.51-0.42	SD7-柵列-P1
		P533	0.62×0.46-0.41	SB4-P5			-	0.36×0.28-0.17	SD7-柵列-P2
		P530	0.78×0.52-0.48	SB4-P6			-	0.32×0.28-0.22	SD7-柵列-P3
		P528	0.88×0.63-0.46	SB4-P7			-	0.58×0.44-0.35	SD7-柵列-P4
		P527	0.50×0.47-0.43	SB4-P8			-	0.35×0.30-0.29	SD7-柵列-P5
		P511	0.33×0.31-0.24	SB4-P9			-	0.30×0.24-0.20	SD7-柵列-P6
	P581	0.21×0.19-0.17	SB5-P1	-			0.39×0.34-0.24	SD7-柵列-P7	
	G12	P598	0.32×0.28-0.25	SB5-P2		B14	-	0.46×0.42-0.16	SD7-柵列-P8
		P560	0.30×0.29-0.17	SB5-P3		C14	-	0.37×0.32-0.13	SD7-柵列-P9
		P567	0.32×0.29-0.34	SB5-P4			-	0.30×0.28-0.23	SD7-柵列-P10
		G13	P579	0.29×0.21-0.22		SB5-P5	B14	-	0.54×0.42-0.35
	P588		0.26×0.23-0.17	SB5-P6		-	0.51×0.42-0.34	SB6-P2	
	P587		0.29×0.22-0.22	SB5-P7		-	0.47×0.29-0.38	SB6-P3	
	P585		0.25×0.23-0.13	SB5-P8		-	0.54×0.47-0.30	SB6-P4	
	G12	P513	0.22×0.18-0.29	SB5-P9		C14	-	0.37×0.26-0.26	SB6-P5
	G13	P592	0.33×0.31-0.19	SB7-P1			-	0.26×0.24-0.19	SB6-P6
		P593	0.34×0.29-0.16	SB7-P2			-	0.28×0.28-0.18	SB6-P7
		P594	0.31×0.28-0.13	SB7-P3			-	0.90×0.42-0.31	SB6-P8
		P545	0.77×0.75-0.52	SB7-P4			-	0.40×0.31-0.21	SB6-P9
		P516	0.29×0.23-0.24	SB7-P5			-	0.42×0.37-0.17	SB6-P10
	P591	0.36×0.34-0.17	SB7-P6	B14			-	0.32×0.32-0.41	SB6-P11
G13	P503	0.66×0.55-0.48	SA1-P1		-	0.36×0.26-0.08	SB6-P12		
	P539	0.60×0.34-0.20	SA1-P2		-	0.52×0.33-0.35	SB6-P13		
P546	0.51×0.30-0.39	SA1-P3							

表27 南原千軒遺跡ピット計測表(遺構外)(1)

調査区	グリッド	No.	長軸×短軸-深さ(m)	調査区	グリッド	No.	長軸×短軸-深さ(m)	
4区	E12	P575	0.33×0.31-0.51	4区	G13	P489	0.21×0.20-0.16	
		E13	P573			0.38×0.34-0.22	P490	0.28×0.24-0.19
			P602			0.30×0.27-0.40	P491	0.27×0.25-0.25
	F12	P500	0.72×0.62-0.32			P492	0.53×0.42-0.08	
	F13	P499	0.55×0.52-0.44			P493	0.32×0.31-0.33	
		P505	0.29×0.22-0.27			P494	0.32×0.32-0.22	
		P508	0.40×0.36-0.36			P495	0.45×0.35-0.25	
		P568	0.41×0.37-0.23			P496	0.33×0.30-0.21	
		P569	0.49×0.37-0.12			P497	0.34×0.25-0.29	
		P570	0.41×0.30-0.25			P498	0.39×0.31-0.29	
		P571	0.58×0.49-0.32			P501	0.25×0.24-0.17	
		P572	0.73×0.60-0.18			P502	0.55×0.40-0.37	
		P519	0.45×0.31-0.22			P504	0.45×0.43-0.22	
	P520	0.30×0.28-0.26	P506			0.31×0.25-0.29		
	P555	0.28×0.26-0.22	P509			0.41×0.40-0.49		
	P558	0.47×0.36-0.30	P510			0.48×0.34-0.19		
	P559	0.49×0.33-0.40	P512			0.30×0.29-0.27		
	P561	0.33×0.30-0.24	P514			0.46×0.25-0.31		
	P562	0.30×0.25-0.40	P515			0.50×0.48-0.67		
	P563	0.41×0.36-0.36	P517			0.31×0.30-0.38		
	P564	0.33×0.30-0.13	P518			0.36×0.33-0.24		
	P565	0.28×0.25-0.19	P521			0.26×0.23-0.26		
	P566	0.28×0.26-0.31	P522			0.47×0.41-0.51		
	P580	0.37×0.34-0.16	P523			0.44×0.38-0.34		
	P582	0.51×0.38-0.27	P524			0.45×0.40-0.34		
	P583	0.42×0.40-0.36	P525			0.71×0.50-0.48		
	P599	0.28×0.23-0.34	P529			0.87×0.59-0.58		
	P600	0.34×0.29-0.32	P532			0.48×0.45-0.31		
	P601	0.27×0.24-0.15	P534			0.69×0.55-0.63		
	P483	0.30×0.26-0.34	P536			0.51×0.46-0.27		
	P484	0.42×0.35-0.35	P537			0.34×0.33-0.32		
	P485	0.32×0.24-0.36	P538			0.50×0.33-0.19		
	P486	0.26×0.26-0.30	P540			0.43×0.34-0.16		
	P487	0.37×0.32-0.41	P541			0.26×0.23-0.14		
	P488	0.36×0.32-0.24	P542			0.38×0.37-0.22		

表28 南原千軒遺跡ピット計測表(遺構外)(2)

調査区	グリッド	No.	長軸×短軸-深さ(m)	調査区	グリッド	No.	長軸×短軸-深さ(m)
4区	G13	P543	0.23×0.22-0.18	5区	C14	P687	0.40×0.39-0.24
		P547	0.39×0.34-0.12			P688	0.49×0.39-0.48
		P548	0.30×0.20-0.21			P689	0.63×0.43-0.36
		P551	0.27×0.26-0.26			P692	0.46×0.35-0.31
		P552	0.51×0.42-0.45			P693	1.04×0.57-0.59
		P553	0.31×0.29-0.20			P694	0.53×0.34-0.67
		P554	0.50×0.34-0.27			P696	0.40×0.39-0.55
		P574	0.32×0.26-0.13			P698	0.34×0.33-0.41
		P576	0.50×0.48-0.45			C15	P661
		P577	0.44×0.37-0.29		P663		0.35×0.29-0.23
		P586	0.28×0.25-0.22		P664		0.23×0.23-0.23
		P589	0.28×0.25-0.10		P665		0.27×0.26-0.16
		P590	0.23×0.22-0.22		P666		0.30×0.29-0.20
		P595	0.57×0.50-0.22		P667		0.24×0.22-0.21
		P597	0.70×0.43-0.30		P668		0.44×0.33-0.25
		P603	0.27×0.23-0.18		P669		0.38×0.27-0.17
		P604	0.25×0.23-0.18		P670		0.27×0.24-0.22
		G14	P507		0.60×0.40-0.62	P671	0.30×0.23-0.20
	P596		0.35×0.33-0.22		C16	P618	0.43×0.40-0.56
	H13		P549			0.34×0.28-0.45	P620
		P550	0.33×0.30-0.25			P636	0.39×0.25-0.15
P578		0.48×0.46-0.54	P639	0.36×0.31-0.20			
5区	B14	P605	0.32×0.32-0.13	D14	P640	0.30×0.24-0.15	
		P628	0.42×0.39-0.34		P659	0.79×0.59-0.28	
		P629	0.26×0.26-0.11		P660	0.40×0.36-0.26	
		P630	0.40×0.30-0.10		P673	0.51×0.42-0.26	
		P631	*0.43×0.31-0.19		P677	0.77×0.61-0.22	
		P682	0.36×0.36-0.21		P697	0.30×0.29-0.25	
	B15	P606	*0.34×0.18-0.20		P699	0.42×0.25-0.36	
		P662	0.26×0.23-0.14		D15	P622	0.79×0.59-0.21
	B16	P616	0.43×0.39-0.55			P623	0.32×0.27-0.32
		P617	0.68×0.41-0.40	P637		0.31×0.28-0.42	
		P619	0.43×0.31-0.40	P672	0.44×0.34-0.25		
		P632	0.30×0.28-0.13	D16	P607	0.32×0.30-0.32	
		P633	0.54×0.39-0.48		P608	0.29×0.29-0.22	
	P634	0.27×0.27-0.09	P609		0.33×0.29-0.24		
	P635	0.37×0.36-0.27	P610		0.36×0.30-0.27		
	C13	P645	0.27×0.26-0.37	P621	0.39×0.36-0.15		
		P647	0.32×0.28-0.21	P627	0.41×0.33-0.42		
		P690	*0.29×0.15-0.36	D17	P613	0.32×0.31-0.16	
	P691	0.35×0.33-0.38	P624		0.67×0.57-0.25		
	P695	0.43×0.34-0.39	P625		0.50×0.36-0.16		
	5区	C14	P641	0.49×0.36-0.48	P626	0.60×0.27-0.16	
P642			0.37×0.32-0.47	E14	P638	0.52×0.34-0.31	
P643			0.40×0.38-0.31		E16	P611	0.31×0.30-0.16
P644			0.43×0.40-0.48	P612		0.31×0.31-0.28	
P646			0.41×0.39-0.30	P614		0.41×0.35-0.23	
P648			0.45×0.45-0.35	G16	P615	0.36×0.34-0.17	
P649		0.60×0.40-0.28					
P650		0.49×0.44-0.16					
P651		0.30×0.22-0.34					
P652		0.30×0.23-0.31					
P653		0.40×0.40-0.26					
P654		0.40×0.30-0.19					
P655		0.60×0.54-0.43					
P656		0.61×0.29-0.38					
P657		0.40×0.39-0.40					
P658		0.44×0.33-0.23					
P674		0.58×0.41-0.35					
P675		0.43×0.35-0.43					
P676		0.36×0.24-0.38					
P678		1.05×0.75-0.13					
P679		0.70×0.70-0.25					
P680		0.23×0.21-0.31					
P681		0.42×0.36-0.51					
P683		0.44×0.37-0.31					
P684	0.28×0.24-0.25						
P685	0.30×0.29-0.19						
P686	0.38×0.36-0.23						